

JAL愛媛原告を支える会



ニュース



発行：JAL不当解雇とたたかう愛媛原告を支える会
連絡先：愛媛自治労連会館3F愛媛労連内
松山市三番町8-10-2 Tel. 089-945-4526

今年も元気に 8.12松山空港前宣伝



暑い夏を力いっぱいたたかう

JAL不当解雇撤回争議団
西予市在住 大池ひとみ

宇和高原では虫の音が聞こえ、朝晩は羽織るものが必要なくらい気温が下がってきました。今年の夏は本当に暑かったですね。特に8月は酷暑という言葉がぴったりでした。そんな中、盛りだくさんの活動にご参加下さり、心から感謝致します。

35年目を迎えた御巣鷹山事故の日(8/12)、毎年空港で宣伝行動ができてるのは愛媛だけです。お盆の忙しい時期の朝早くから、うたごえの仲間をはじめ大勢の方に集まっていただき、通信労組OBの二宮治夫さん手作りの「御巣鷹山を忘れるな！ベテランクルーを職場に戻

せ」の横断幕を掲げ、「あの空へかえろう」「翼よ高く輝け」の歌声が響きわたる中、思いのたけを訴えることができました。「絶対安全の確立」「現場第一主義」「公正明朗な人事」「労使関係の安定融和」はJALの永遠の課題です。

その翌週(8/17)からは2013年以来7年ぶりの四国キヤラバン。全国一律最低賃金1500円実現に取り組む団体とコラボし、4日で四国各県を回るハードな日程でしたが、賛同団体は35を数え、延べ参加人数は200人を超えました。

(裏面に続く)

私も 応援します

理不尽を見過ごせない2人

愛媛民報記者

吉田 寛

2011年4月、県春闘共闘・愛媛労連の宣伝で、募金箱を手に一生涯懸命、「東日本大震災被災者救援」を呼びかけている2人の女性を取材したのが、林さんと大池さんとの初めての出会いでした。とにかく目立っていました。でも、誰も2人を知らない。勇気を出して(笑)声をかけると、「被災者のため何かしたいと思って…」と飛び入り。3月に東京から愛媛に引越してきたばかりで、知り合いもいない中ででの行動参加でした。

以来9年半、空の「安全」を守り、働く者の権利と尊厳を守るために、不当解雇撤回の闘いに全身全霊で取り組む2人。不

当判決への怒りとともに、つらいことや苦しいことも度々あったのではないかと思います。いつも笑顔で、ときばき、はつらつとされている姿を取材する度に、私も元気を分けてもらっています。

理不尽なことや、困っている人たちがいれば見過ごしにできない林さんと大池さん。原発再稼働中止や安保法制反対をはじめ様々な集会や宣伝行動でも度々お会いしました。いまや、県内の労働運動や市民運動で、JALの2人を知らない人は誰もいないのではないのでしょうか。

これからもJAL争議団の闘いを取材し、そして応援します。

みんなの力借り

四国キャラバン

やりぬく



8月17日徳島



8月18日香川



8月19日高知



8月20日松山 大街道入口



8月20日松山 市駅前



8月20日松山 コムズ学習会

徳島を皮切りに、香川、高知、愛媛と、スタンディング、テープ宣言を中心にした宣伝行動や、労働局要請、学習会を行いました。

毎日厳しい暑さで、アスファルトの熱で靴底が解けそうになりながら、帽子、サングラス、マスクの3点セットで防備するも、手の甲と足の甲は真っ黒に日焼けしました。徳島では37.6度を記録。暑いという感覚を超えています。

労働局要請では、解雇問題について地方ができることは限られるとしつつも、4県揃って本省に上申すると約束してくれました。高知は当初「上申しない」と答えていましたが、翌日には「上申する」との連絡がありました。その電話を受けたときには、街宣車の中で拍手喝采、疲

れが吹き飛びました。松山の大道入口宣伝からは、福岡からパイロット争議団の榊原正好さんが応援に駆けつけ、パワーアップしました。午後一番の労働局要請の後に市駅前宣伝、夕方にはコムズで学習会と続きました。学習会では、これまでの闘いを実感するようなDVDを上映。最後は、うたごえの仲間と「がんばろう」を歌い4日間の全日程を終えました。ご支援、本当にありがとうございました。

最賃1500円実現をめざす行動とコラボできたことで、私たちもいろいろ学ぶことができました。愛媛のうたごえの仲間には学習会のDVD設定までお世話になり、いっそう連帯を深めました。うたごえの若い仲間が、これまでの活動を通じてJ

AL争議の存在を知り、労働組合に加入したそうです。それを聞いたときは、本当にうれしかったです。うたごえの力は日々私たちを励まし、たたかいの原動力です。

キャラバン翌週(8/26)には、定例の県庁前宣伝にも取り組みました。マスク、消毒、スタンディングと少し不自由ですが、長引くコロナ禍により、解雇問題をより身近なものとして訴えています。こうした時だからこそ、私たちが職場に戻ることが労働者に勇気を与えると信じています。現役の客室乗務員もフライトがなくなり、生活が苦しく、不安な毎日を過ごしていますが、コロナに乗じた解雇を許してはなりません。

夏の疲れはありますが、心は元気いっぱいです。